
彼女たちは、それでも戦い続ける

複写集団

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女たちは、それでも戦い続ける

【Nコード】

N6305Z

【作者名】

複写集団

【あらすじ】

ふたばあちい
双葉葵たちの戦う様を描く予定……………

a c t・0 序章（前書き）

どうもはじめまして、神成 陣かんさい じんです。

間違えても、発音が“関西人”ではないですよ？

そんなことは、さておき、今回は序章ですのすごく短いですがぜひ読んで頂ければと思いますして作りました。

では、読んでください。

act・0 序章

彼女らは戦う。

己が生き抜くために――。

「ふう……………」

三年ぶりに帰って来た生まれ故郷の島の地を踏んで双葉葵^{ふたはあおい}は、ため息をついた。

彼女の故郷、三日月島^{クレシエン}は、最近、ショッピングモールが完成して観光客も増えてきた。

彼女は、それには目もくれずに、ある場所を目指している。

それは、かつて彼女と一緒に戦ったコトのある仲間、杉崎桜^{すぎはきさくら}の墓だ。
「わ、私はッ……………」

彼女は、何かを言いかけて涙を流した。

その瞬間^{とき}、彼女の頬の涙を拭うかのように風が吹いた。

「そう……………だよね……………。これからは、あなたの分も私頑張るよ!」

彼女は、力強くそう戦友^{とも}の墓石に誓うのだった。

a c t . 0 序章（後書き）

どうでしたか？

辛口なご意見、ご感想もお待ちしておりますので、よろしければ感想をお教えください。
では、また次回。

a c t . i 葵、帰島する（前書き）

おひさしぶりです。

神成 陣です。

これから、始まります。

末永くよろしく願います。

act・1 葵、帰島する

クレシェン

三日月島は、観光客で賑わう島の一つだ。

（三年前とは、大違いね……。こうやって見ると感慨深いわね♪）

双葉葵は、そう思った。

人混みを分けて、少し人の少ない場所にある自宅を目指した。

夏風が、葵のキレイなブロンドの髪をなびかせた。
そこへ誰かがやって来た。

「葵姉様！おかえりなさい♪」

そう言いながら、葵の妹、双葉朱莉は、葵に抱き着いた。

その時、朱莉のツインテールが揺れた。

「ただいま。元気にしてた？」

葵は、優しく頭を撫でて、朱莉を自らの体から離れた。

「していましたの♪姉様、今回はいつまでこちらに滞在なさるので
すか？」

朱莉は、笑顔で葵に聞いた。

葵は、

「いつまでかは、わからないわ。でも、しばらくはいるのは、確実
よ♪」

と、言った。

「やった♪」

実に子供らしい様子で朱莉は喜んでいる。

それを微笑んで見守る、葵。

そんな二人が並んでいると、とても絵になるのだ。

「二人とも……。そんなトコロでイチャついてないで中に入りなさ

いな♪」

アマノネツクヨ

家の中から、雨音月夜は、呼びかけた。

「つ、月夜！いい、いい、イチャつく、って私たちは姉妹なのよ！それは、ないわよ……！」

「ね、姉様ヒドイ……。そんなに否定するコトないのに……」

朱莉は、葵に涙目で言った。

「ほらね！朱莉は、そうなんだってさ♪」

月夜は、してやったりといった顔をしている。

「あ、朱莉まで……。はあ……。もうイイわよ……」

葵は、渋々といった顔だ。

「姉様、中に入りましょう♪」

葵は、朱莉に促されて中に入って行った。

——家の中にて

「久しぶりね、月夜。妹を看っていてくれて、アリガトね」

「当然のコトよ！だってえ、こんなにカワイイ娘看ててって、頼まれたら断る人なんていないよ♪」

「あんた、もしかしてレ……」

「そ、そ、そ、そんな訳ないじゃない！仮に、そうならあんたとか朱莉ちゃんのコトを襲ってると思うよ……？」

以前から、居候する雨音家の中に入ってから、何故か話が外で話していた時より変な方に向かっている。

「だ、だよ……」

「で、葵。お帰りなさい♪」

「ええ、ただいま」

かつて、葵と朱莉は、ここで居候していたのだが、葵は島の外に出ていたのだ。

「外の世界は、どうだった？」

「そうね……、すごくキレイな場所がいっぱい　それから……」
葵は、真剣に話始めた。

——時間後

「まあ、そんなとこ」

「葵、外に行ってみて良かったんじゃない？行く前は、いやがっていたのに、ね」

「そ、そうね……」

葵は、何か言いづらいことが、あるらしい。

「葵！困ったコトがあったら、私に言いなさいよ！力になってあげるから！」

「な、何よ急に……。だいたい、そんなコト言われなくても分かってるよお……」

葵は、子供扱いされて少し照れている。

「そう言えば、ハイこれ。月夜、あんたに頼まれたモノよ！」

そう言つて、月夜に紙袋を差し出した。

「おお、これは……！」

月夜は、嬉しそうに跳びはねて喜んでいる。

「月夜姉様、何が入っていますの？」

「ん？朱莉ちゃん、見て！キレイな指輪だよ」

と言つて、朱莉に見せた指輪にはキレイな宝石がついている。

そして、その宝石は、プリズムの様に光を反射してキレイに光っている。

「葵姉様、この青い宝石何ですか？」

「これは、サファイアよ！」

「なるほどですの」

そんなたわいない話で盛り上がった。

「ふう〜、疲れたからしばらく休むわね……」

「ん、了解♪」

葵は、しばらく休むことにした。

a c t . 1 葵、帰島する（後書き）

どうでしたか??

この文章、一回友人に読んでもらいましたが、その時こう言われま
した。

“まるで、エロゲだな…”と。

まあ、自分でもやりすぎた感がありますが、この調子で続けていき
たいと、思っております。

では、また次回もよろしくお願い申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6305z/>

彼女たちは、それでも戦い続ける

2011年12月27日15時45分発行